

SHASEN

高野生優さんは1972年の写専卒。
現在は沖縄那覇市の大きなスタジオで
コマーシャル・ブライダルをメインに大活躍。
家族4人がイキイキと奮闘中。
沖縄県立芸術大学非常勤講師。絵画でも多くの賞を受賞。
生優さんの一番の楽しみは旅に出かけることとか。

高野生優 × 弘美 × 光 × 大

© 高野生優

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.35

UP! SPECIAL
HAPPY is
FAMILY



写真で「生き様を表現する」
ということは素晴らしいこと。
生まれ育った沖縄を愛し、
自然に感謝しながら今を生きる。

ファミリーが同じ目標、同じ喜びを共有しながら歩む姿は眩いばかりです。

高野生優さん（沖縄県那覇市出身）64歳。写専会沖縄の中で、一番若手で元氣者。沖縄でも有数の大きなスタジオを持ち、奥さんの弘美さん、長男・光君（30）、次男・大君（24）と家族4人力合わせて写真活動に専念している。

高野生優氏は1972年、営業写真専攻を卒業。その後2年間、広島の写真館で修行したのち、ふる里沖縄に戻り、先輩卒業生・安田淳夫氏（写専会沖縄会員）の「フォートブラザ」に就職。頼れる先輩とともに、結婚式の撮影等で、さらに技術を磨いた。

そして8年の歳月を経て独立、「フォートアトタカノ」を設立した。持ち前のチャレンジ精神で、ブライダルフォトからファッション、建築から料理写真まで、水中撮影以外なら何でも引き受ける（沖縄にいなから根っからのカナズチ）。一番弟子の長男・光君、次男の大君もカメラマンとして立派に育って、スタジオを盛り上げている。

彼の意欲的な所は、写真ばかりではない。安田淳夫氏が陶芸で「新象展最高賞」（2015年）を受賞するなら、絵画で同じく「新象展最高賞」（2000年）。沖縄を代表する総合芸術公募展「沖展」でも絵画部門で「奨励賞」（2回）「浦添市長賞」などを受賞している。

「写専会」で酒を酌み交わしながらいつも出る言葉…「就活」ならぬ「終活」

そしてどう次世代に繋いでいくか…などミニシンポのように皆で語り合う。

そんな思いの日々の中で、高野生優氏はコツコツと沖縄県立芸術大学等に通い学生たちに「写真」を解く（非常勤講師）…大いに沖縄の写真界を支えている。

文 写専会沖縄 大塚勝久